

岡島成行（おかじま・しげゆき）

1944年横浜市生まれ。

大妻女子大学教授（環境メディア論）。

1969年読売新聞社入社後、80年から環境問題専門記者となる。

83～84年米・ワシントン大学客員研究員。88年チョモランマ登山取材団長として参加。

同年、国連環境計画「グローバル500賞」受賞。

また92年には、地球サミット（ブラジル）に同社取材団長として参加。

99年読売新聞社退社後、現在は環境ジャーナリスト、（社）日本環境教育フォーラム専務理事、

NPO法人自然体験活動推進協議会代表理事としても活動。

著書に『アメリカの環境保護運動』（岩波新書）、『自然学校をつくろう』（山と溪谷社）など。

稲本正（いなもと・ただし）

1945年富山県生まれ。

オーク・ヴィレッジ代表。工芸家。作家。

立教大学勤務後、76年に工芸村「オーク・ヴィレッジ」（岐阜県清見村）を創設。

お椀から建築まで幅広い工芸を展開する一方、植林活動を行いながら、地球環境における森林生態系の

重要性を発信し続けている。91年には木工・森林のプロ養成を目指す教育機関「森林たくみ塾」を開設。

また、出版活動にも力を入れ、94年には「森の形、森の仕事」で毎日出版文化賞を受賞。同年から12

年にわたって世界の森をめぐる「森の惑星」の取材がスタートし、帰国後、その集大成として著書「森

の惑星」を出版。さらに「森の惑星プロジェクト」として、東京でトークショーを開催し、その一部を

「森を創る 森と語る」の本にまとめ、印税を熱帯林保護のために使う活動を始める。この活動が朝日

新聞天声人語に取り上げられるなど注目されている。

川嶋直（かわしま・ただし）

1953年東京都生まれ。

財団法人キープ協会常務理事（環境教育事業部担当）、社団法人日本環境教育フォーラム理事、

NPO法人自然体験活動推進協議会理事。

早稲田大学社会科学部卒。1980年山梨県清里、八ヶ岳の麓にある財団法人キープ協会に就職。

1984年から環境教育事業を担当。森の中での様々な自然体験プログラムを通して、この素晴らしい自然

環境のために働くことが出来る人を育てることを目指して、様々な仕事をしている。「自然と人との橋

渡し役」といわれる「インタープリテーション」が職業。最近では各地で実施される環境教育・野外教

育・森林環境教育の指導者やインタープリターの養成事業の企画・運営を担当することが多い。また、

途上国の環境教育の取り組みにも関心があり、6年程前から青年海外協力隊の環境教育分野の技術専門

委員も務める。

著書に「就職先は森の中～インタープリターという仕事」（小学館）など

城戸真亜子（きど・まあこ）

1961年名古屋市生まれ。

洋画家。

武蔵野美術大学油絵学科卒。81年にカネボウ キャンペーンガールに抜擢。

87年宝塚観光100周年事業のアートプロデュースを実施。

2001年福岡での「海外旅行博」<JATA主催>で講演など創作活動を中心に幅広く活躍中。

竹越のり子（たけこし・のりこ）

1975年横浜市出身。

インタープリター。

専門学校を卒業後、屋久島や富士山での自然ガイド、鹿児島での農業を通じた環境教育プログラムの企

画・実施、山梨での森や渓谷での環境教育の企画・運営・実施を経て、現在は東京都吉祥寺にあるア

ースマンシップ自然環境教育センターにて環境教育の企画・運営・実施に携わる。

愛・地球博「森の自然学校」のプログラム開発担当者。